

自己温度制御ヒーター 配管用 加工マニュアル

ヒートシステム
H612・H622・H312
100V 200V 100V

- ヒーターの剥き方
- KS-BLS-CR 直線接続キット(電源線接続)
- KS-BLE-CR 端末処理キット(端末処理)
- KS-BLT-CR T型接続キット(T型分岐)



山清電気株式会社

本 社

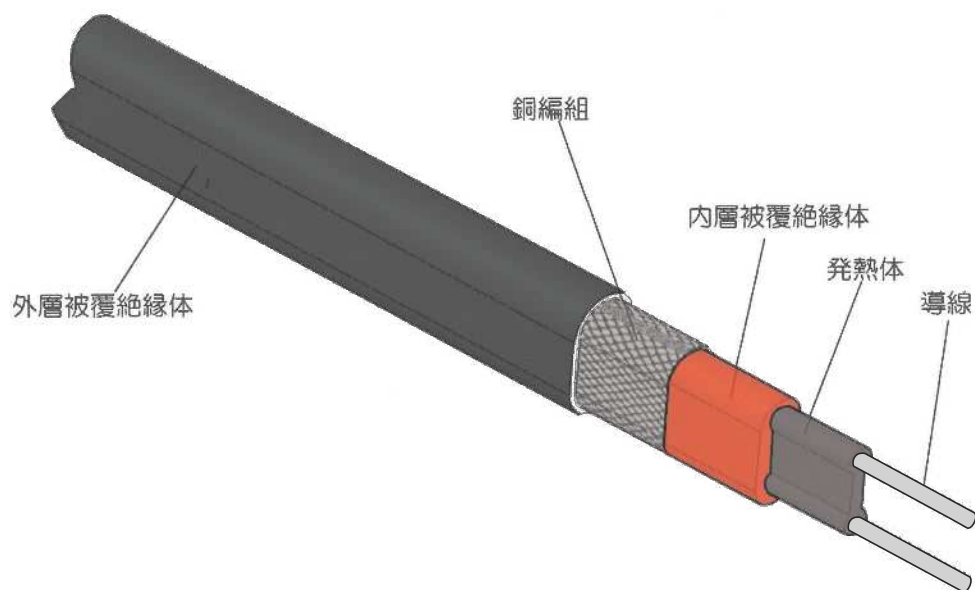
〒399-8204
長野県安曇野市豊科高家1269-1
TEL 0263-88-8209
FAX 0263-88-8239
URL <http://www.sansei-dk.co.jp/>

仙台営業所

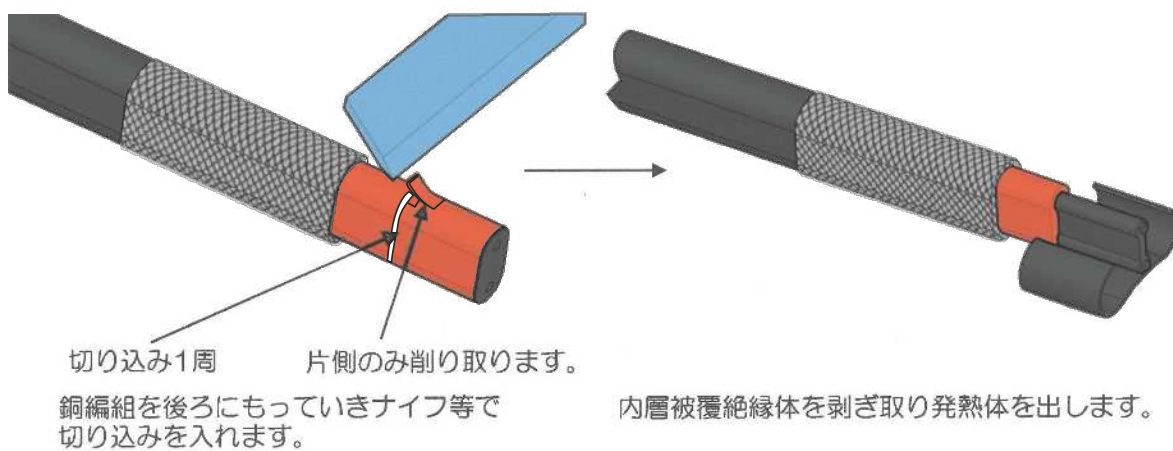
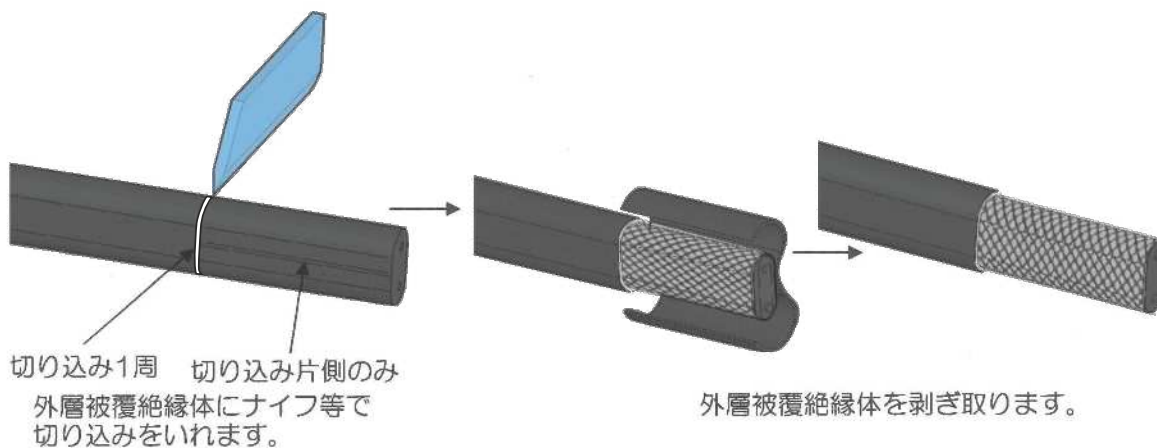
〒984-0821
宮城県仙台市若林区中倉3-18-25
ネオハイツ中倉107号
TEL 022-354-0020
FAX 022-354-0021

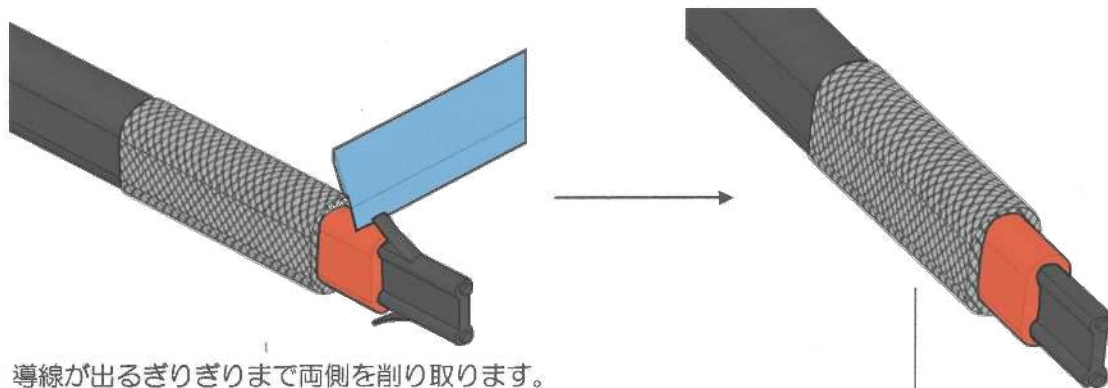
ヒーターの剥き方

自己制御ヒーター構造

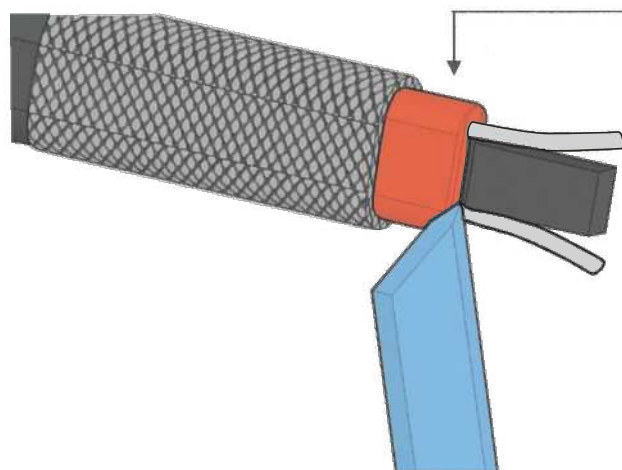


作業手順

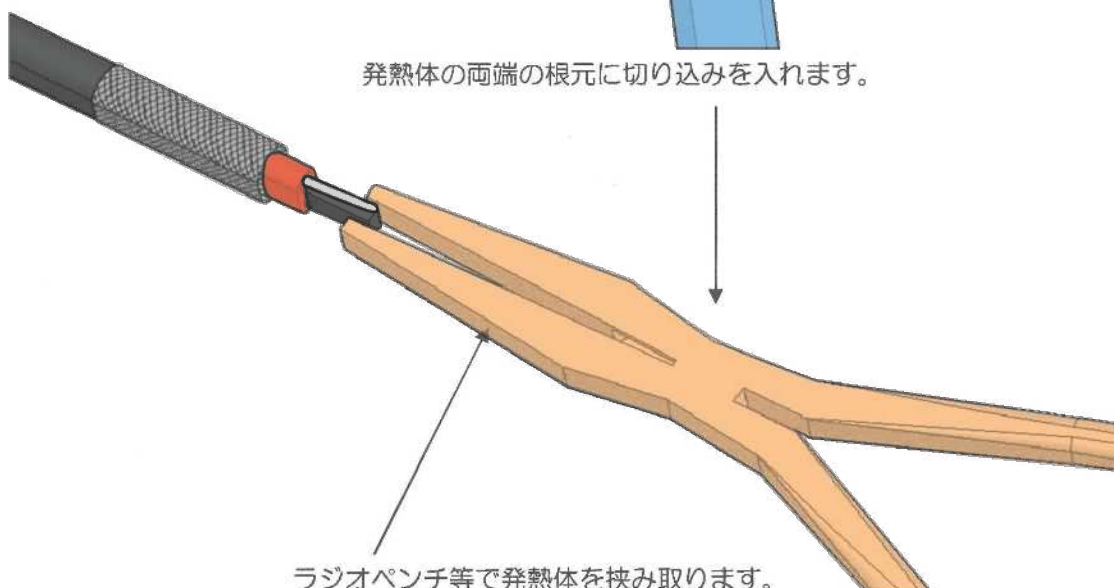




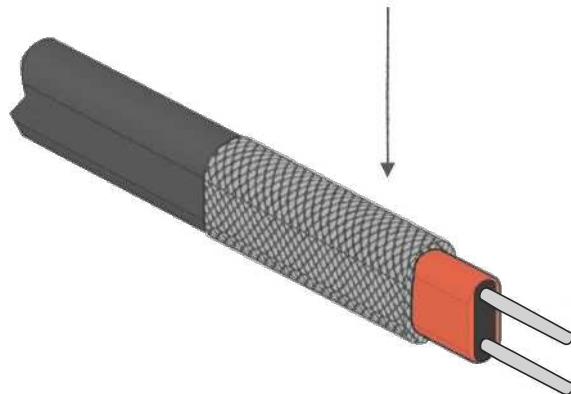
導線が出るぎりぎりまで両側を削り取ります。



発熱体の両端の根元に切り込みを入れます。



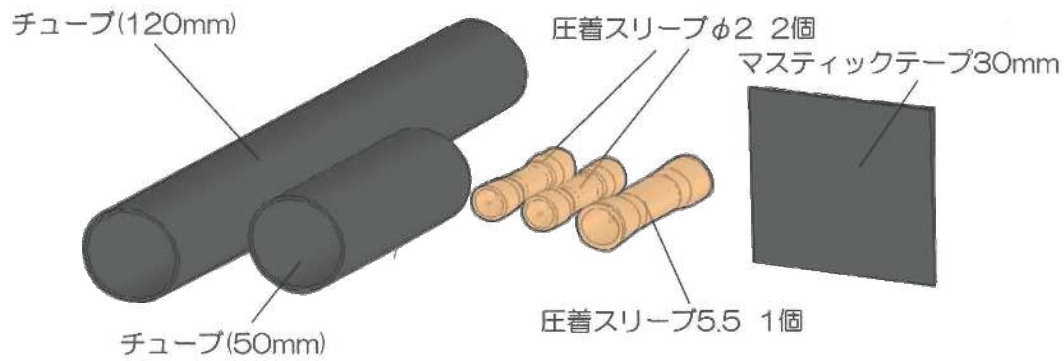
ラジオペンチ等で発熱体を挟み取ります。



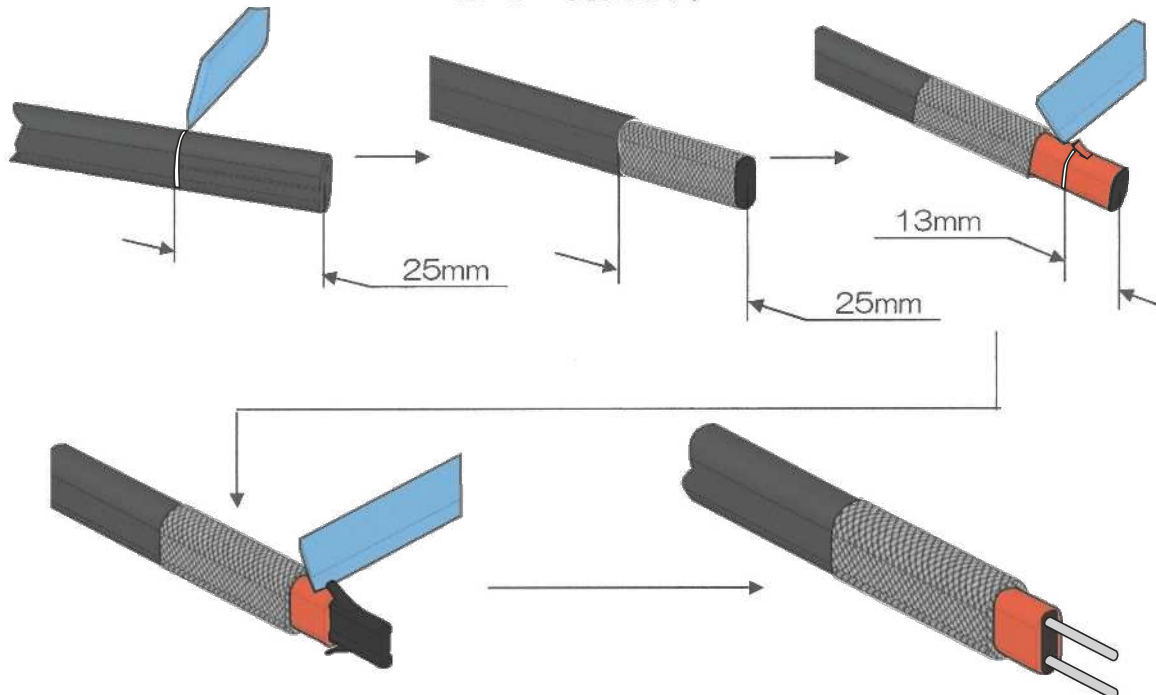
完成です。

直線接続キット(電源線接続) KS-BLS-CR

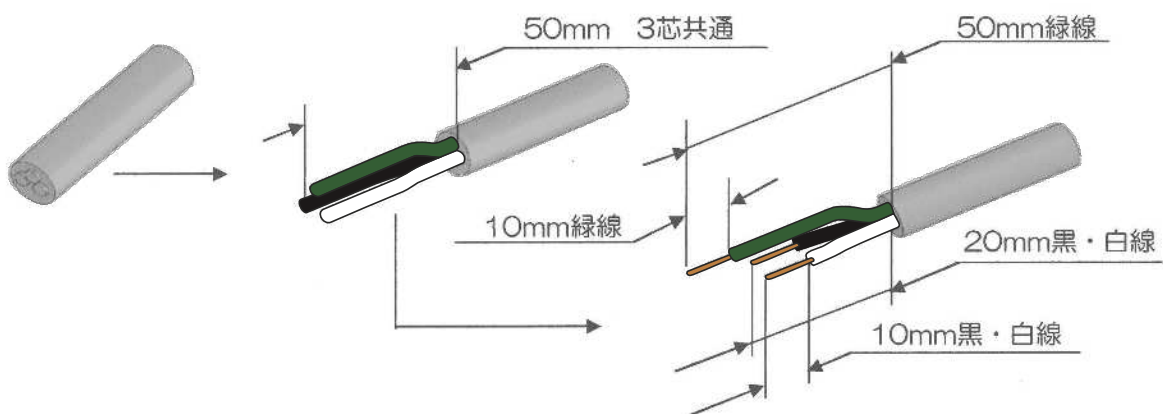
ヒーターと電線の接続用として使用します。

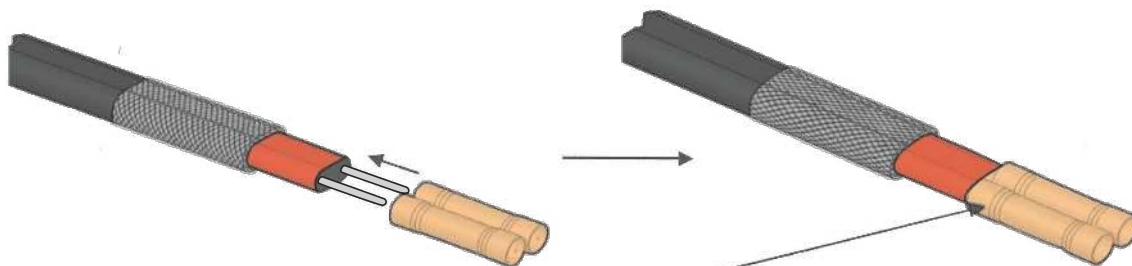


ヒーターを剥きます。

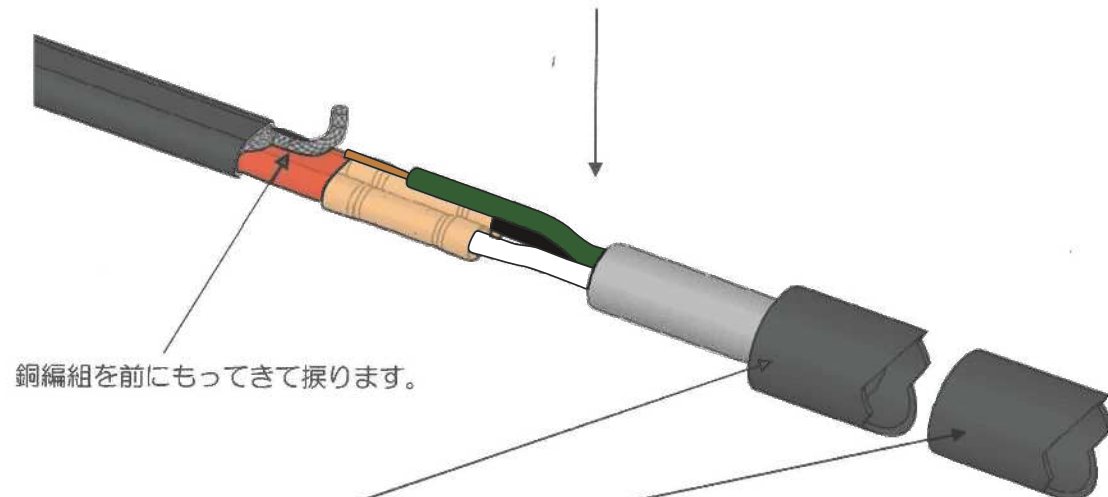


接続用ケーブルを剥きます。



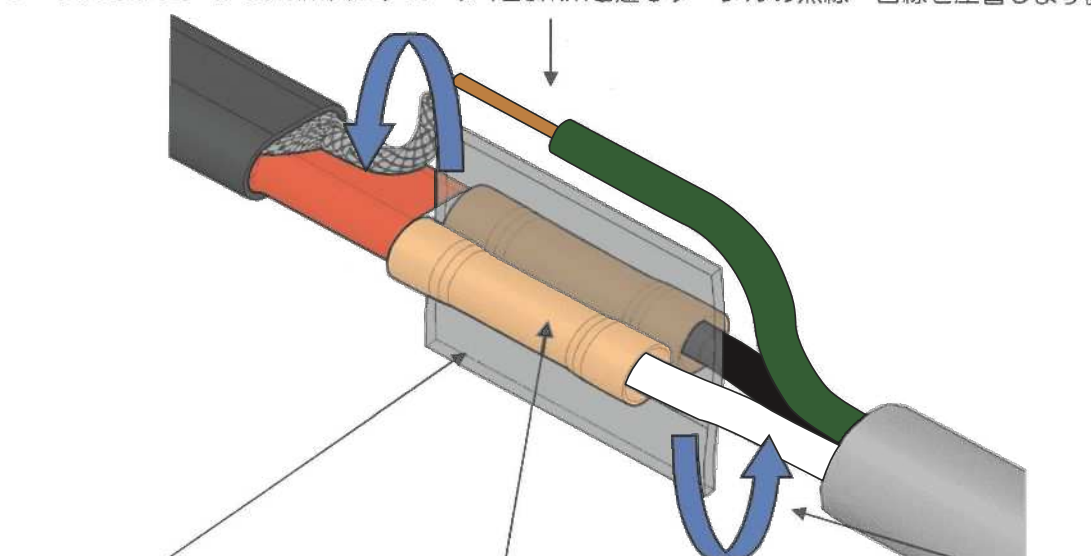


ヒーター導線を防水型圧着スリーブφ2で圧着します。

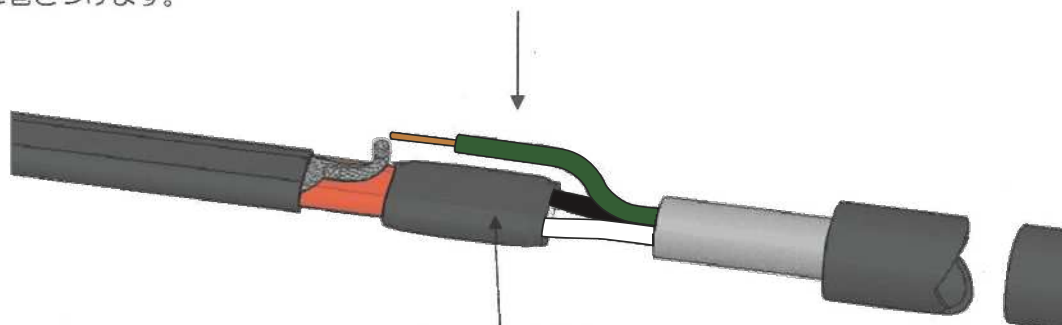


銅編組を前にもってきて振ります。

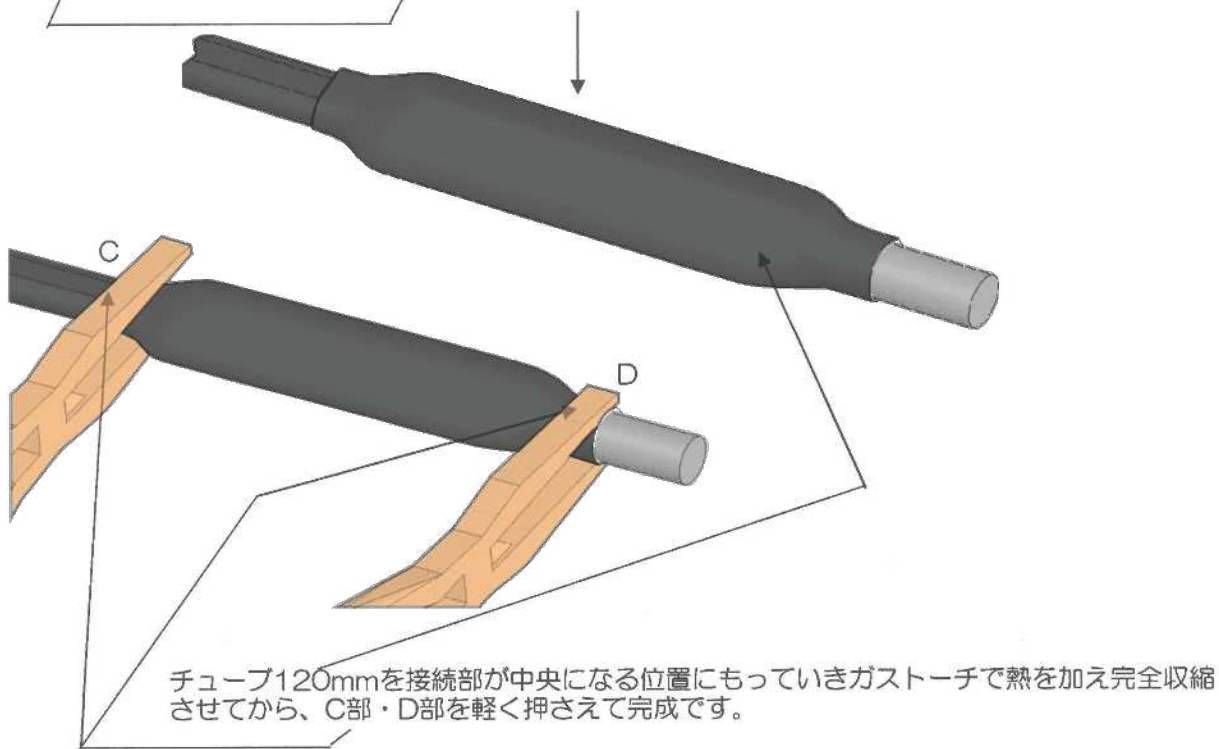
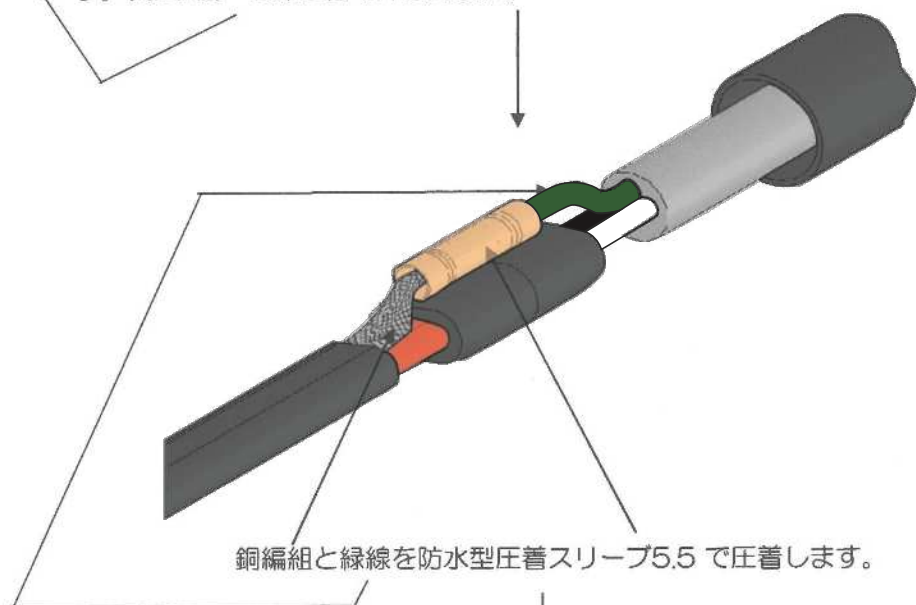
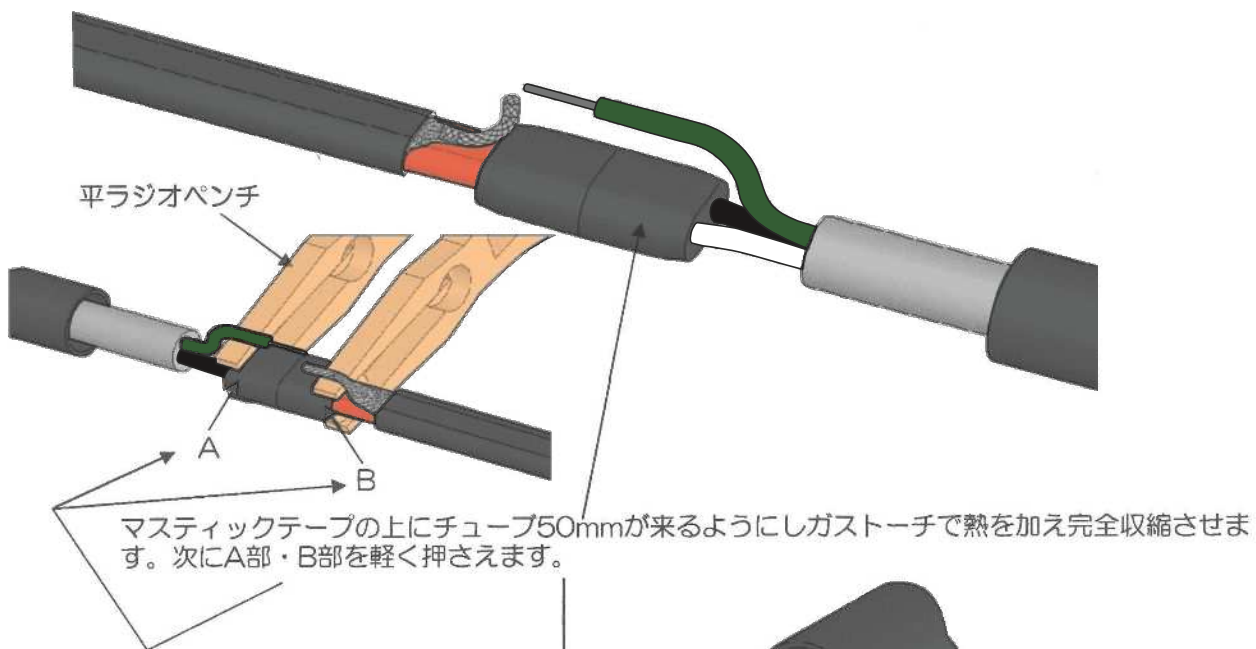
ケーブルにチューブ50mm次にチューブ120mmを通しケーブルの黒線・白線を圧着します。



マスティックテープの紙を剥がし防水型圧着スリーブの間に挟みこみます。次に矢印の方向に巻きつけます。



マスティックテープを巻きつけた状態です。



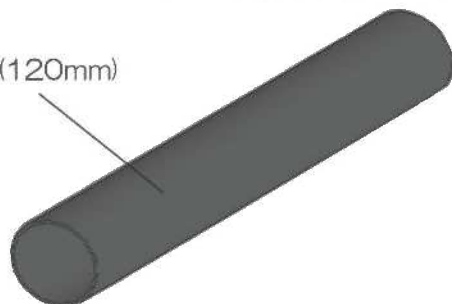
※完全収縮するとチューブ表面に光沢がでます。目安としてください。

端末処理キット(端末処理)

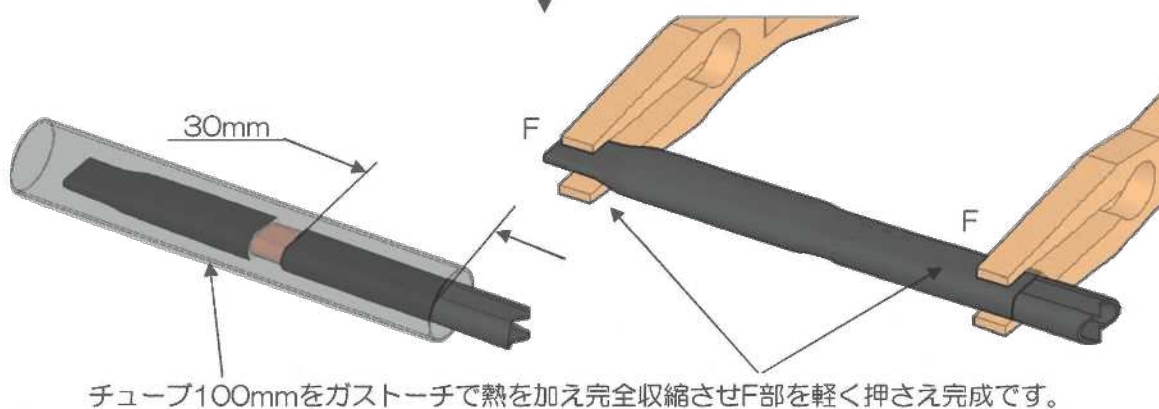
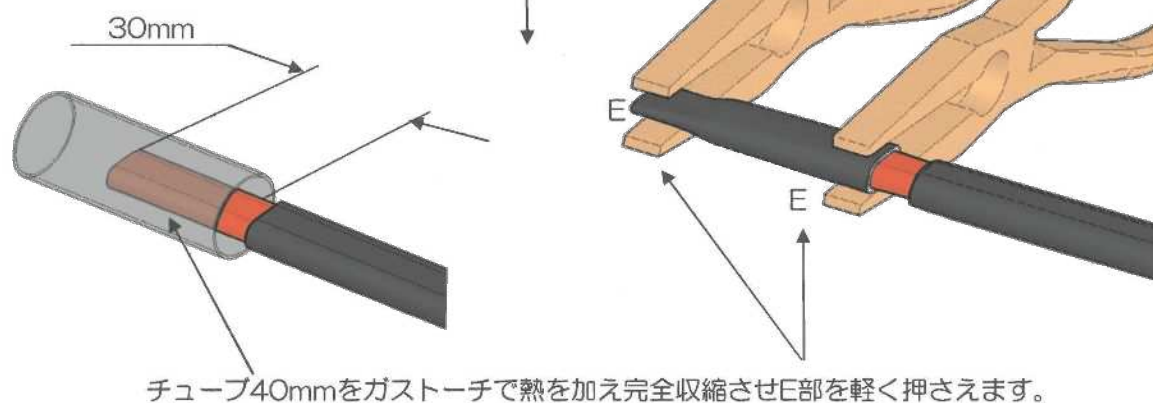
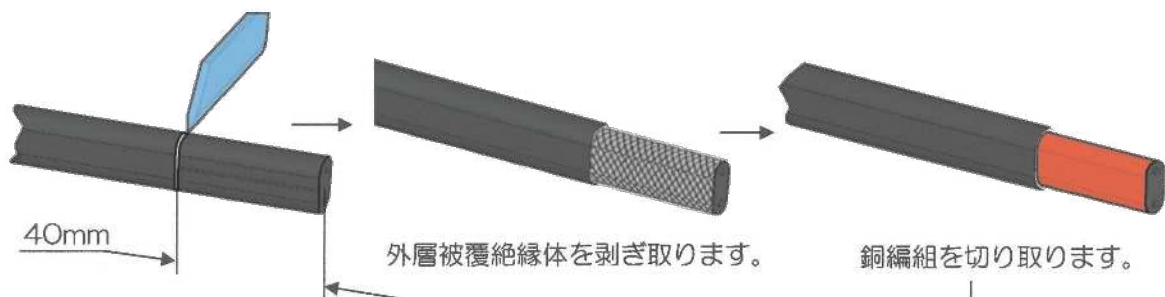
KS-BLE-CR

ヒーターの端末処理用として使用します。

チューブ(120mm)



チューブ(50mm)

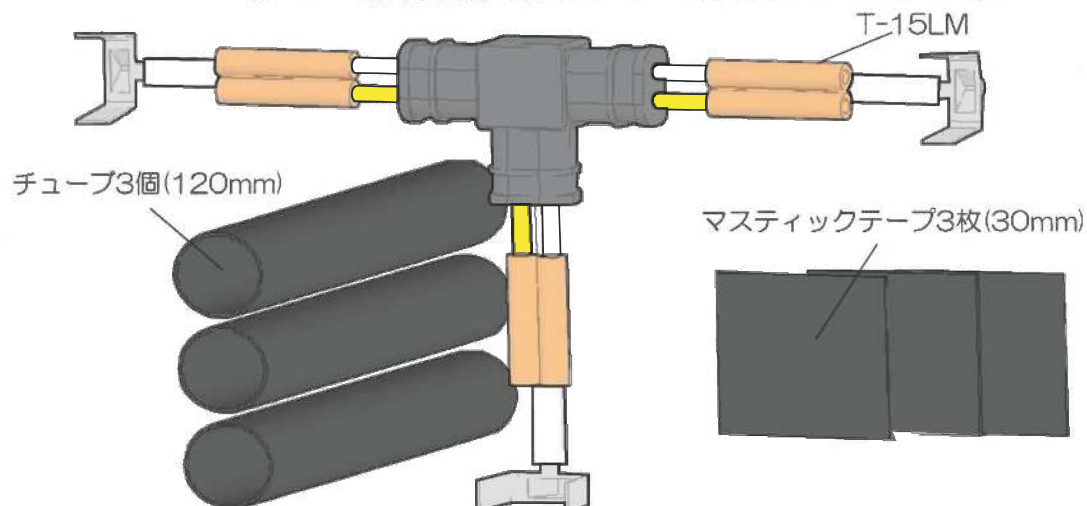


※完全収縮するとチューブ表面に光沢がでます。目安としてください。

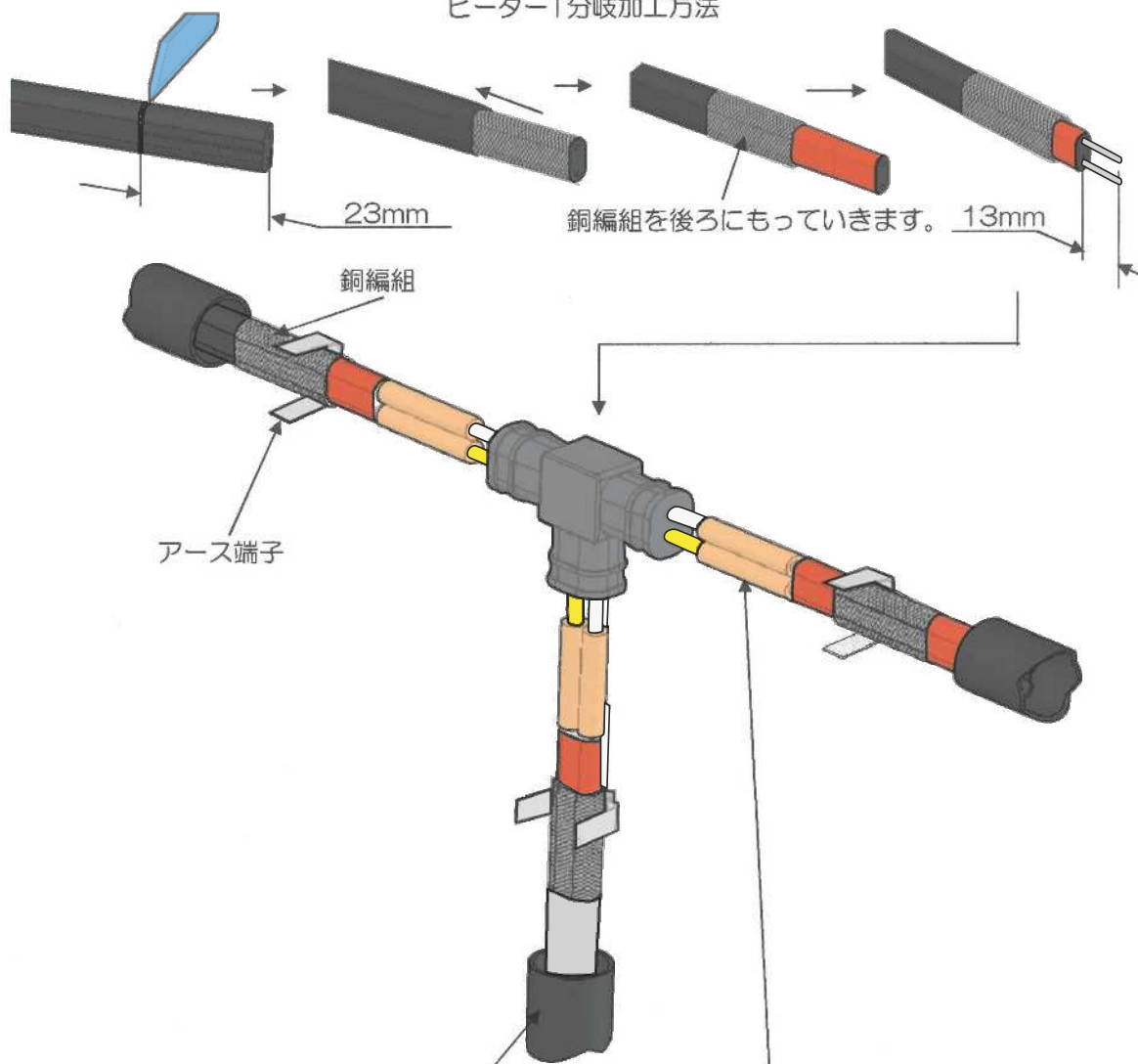
T型接続キット(T型分岐)

KS-BLT-CR

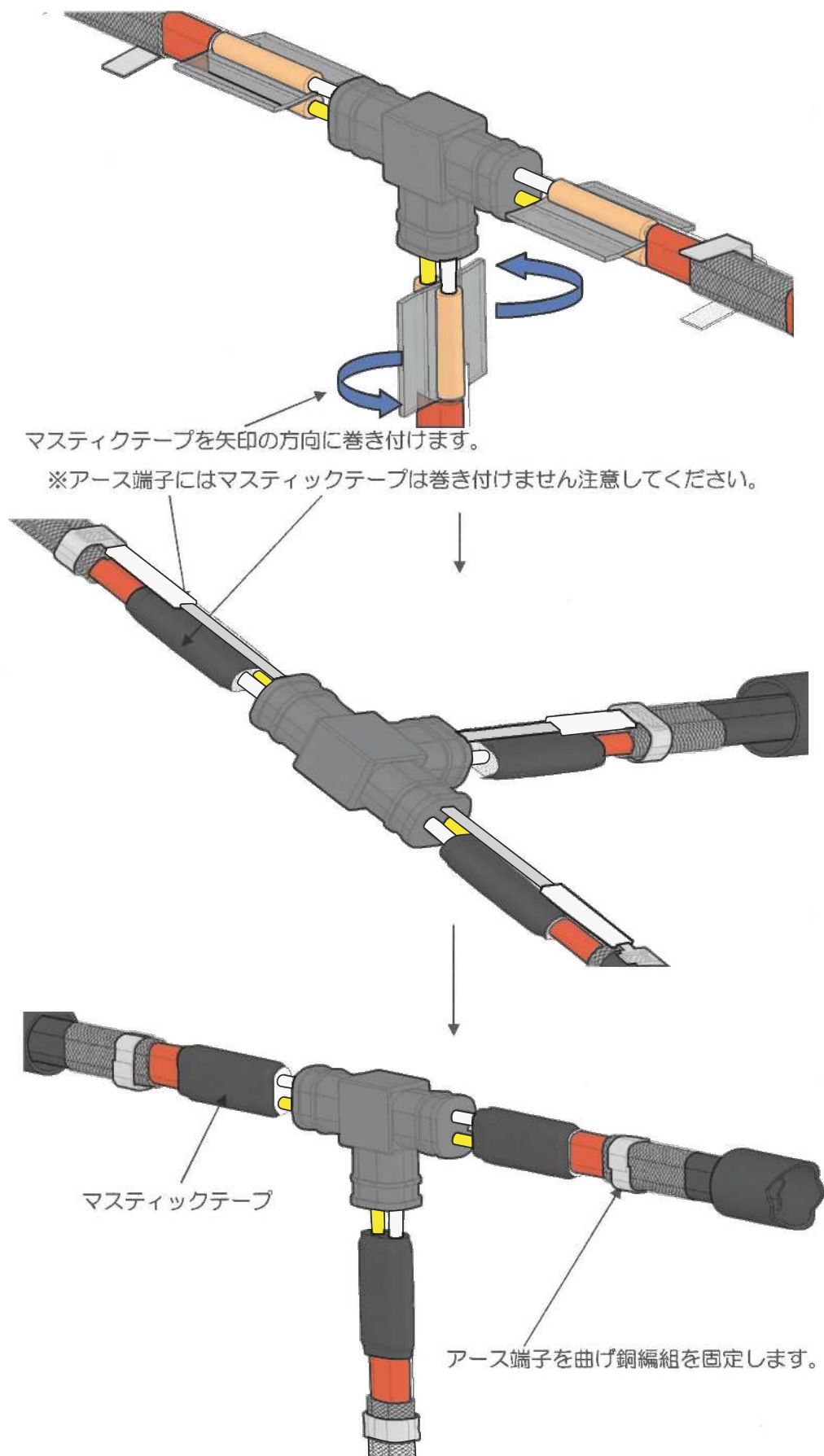
ヒーターT分岐用及び電線とヒーターT分岐用として使用します。

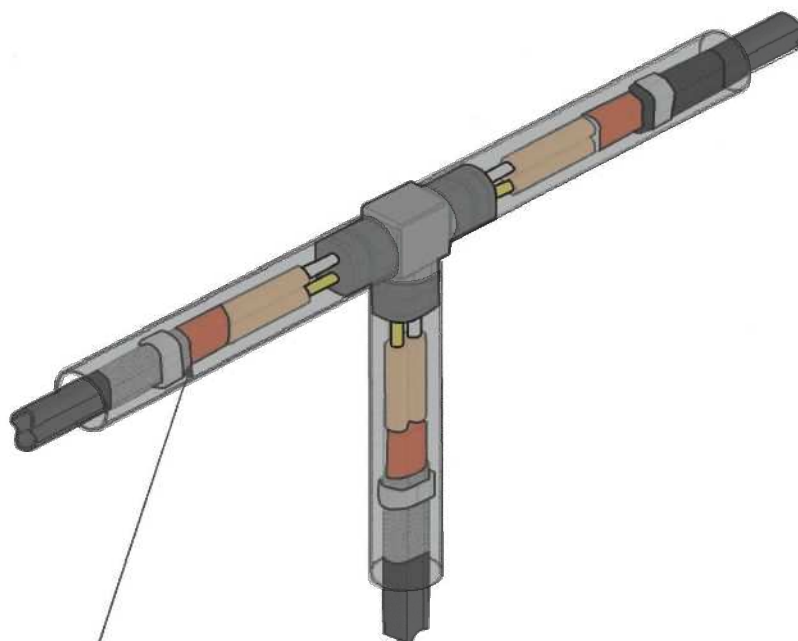


ヒーターT分岐加工方法

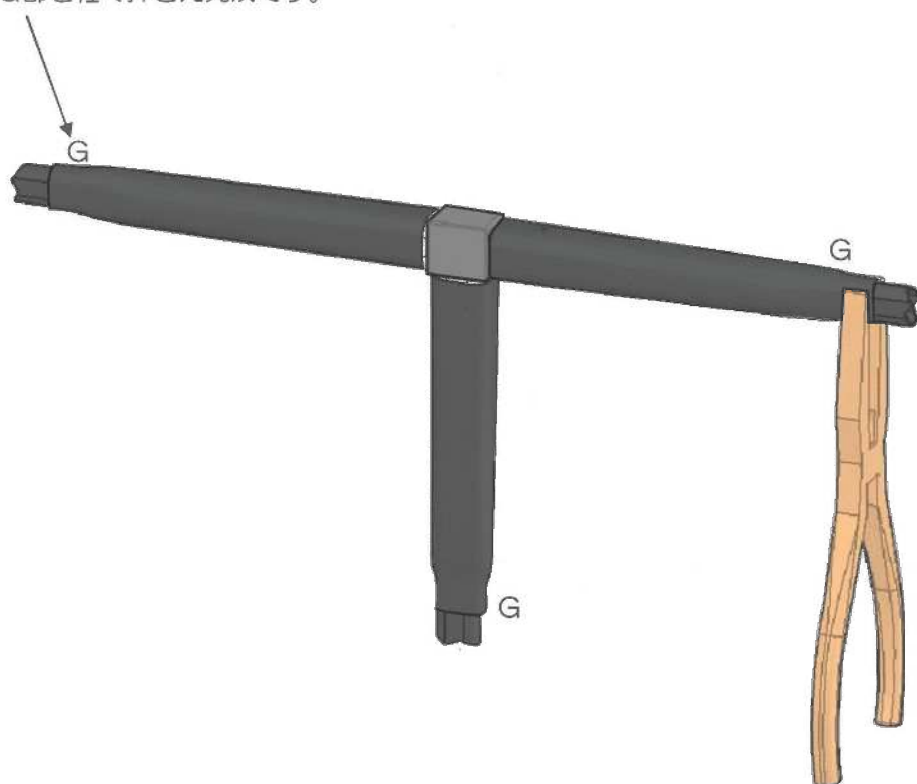


ヒーター3本にチューブ120mmを通してからT-15LMの圧着端子に圧着します
次にアース端子の内側に銅編組をいれます。





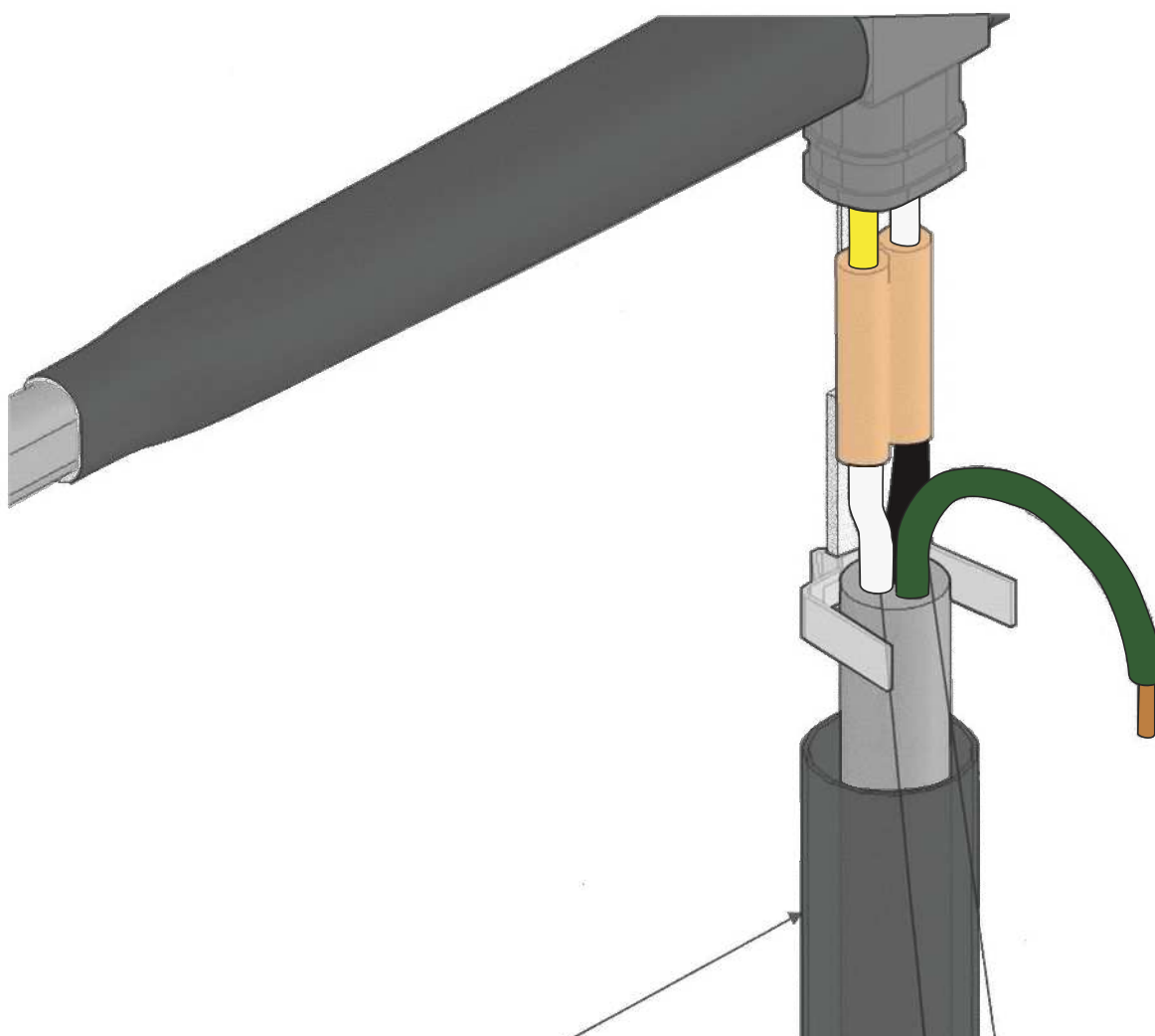
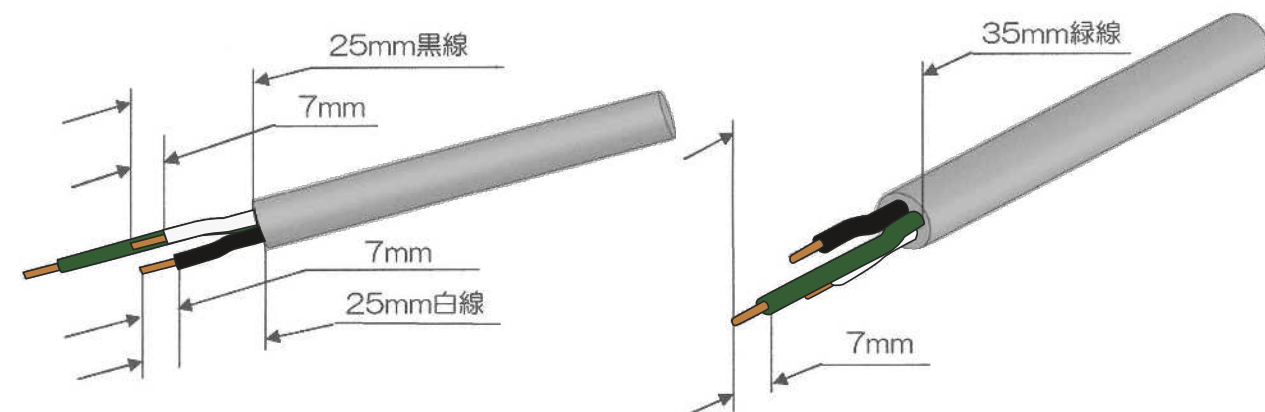
チューブ120mmをT-15LMの根元までずらしてガストーチで熱を加え完全収縮させ次にG部を軽く押さえ完成です。



※完全収縮するとチューブ表面に光沢がでます。目安としてください。

ヒーターと電線のT分岐加工方法

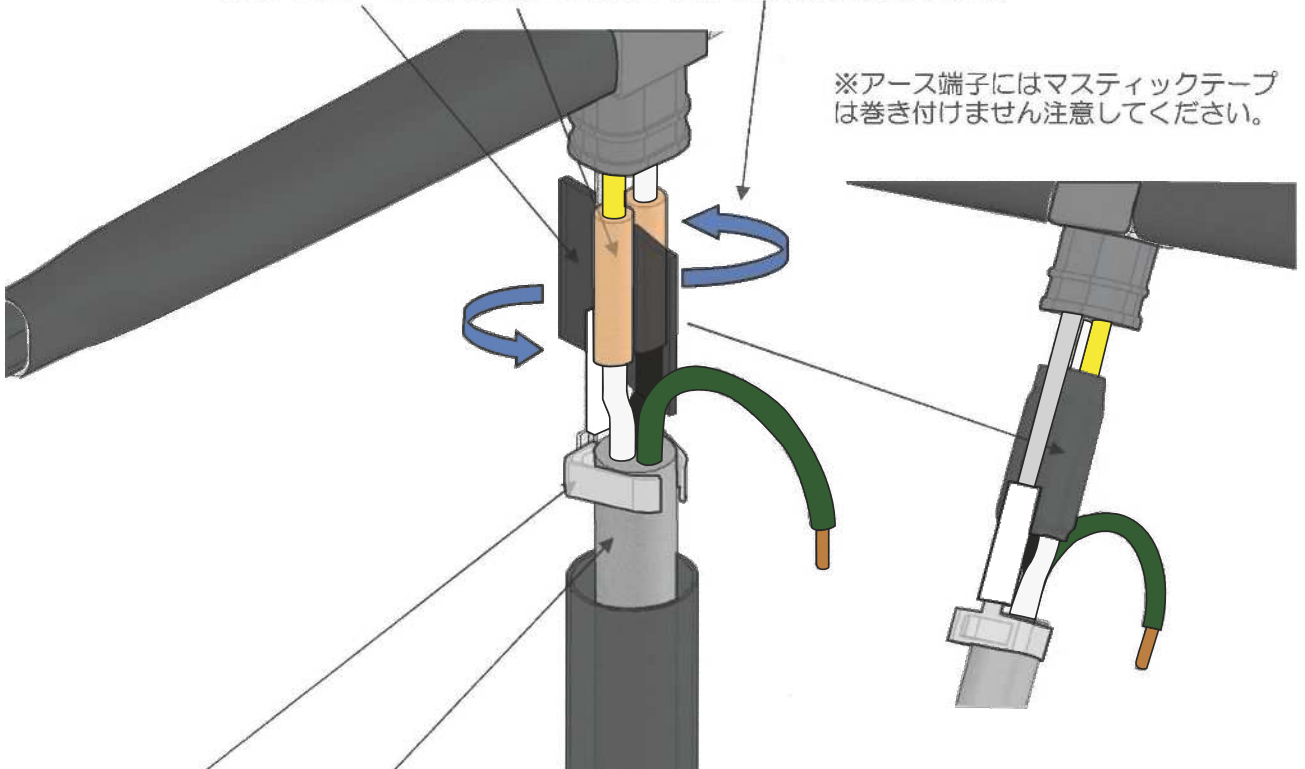
接続用ケーブルを剥きます。



接続用ケーブルにチューブ120mmを通してからT-15LMの圧着端子に白線・黒線を圧着します。

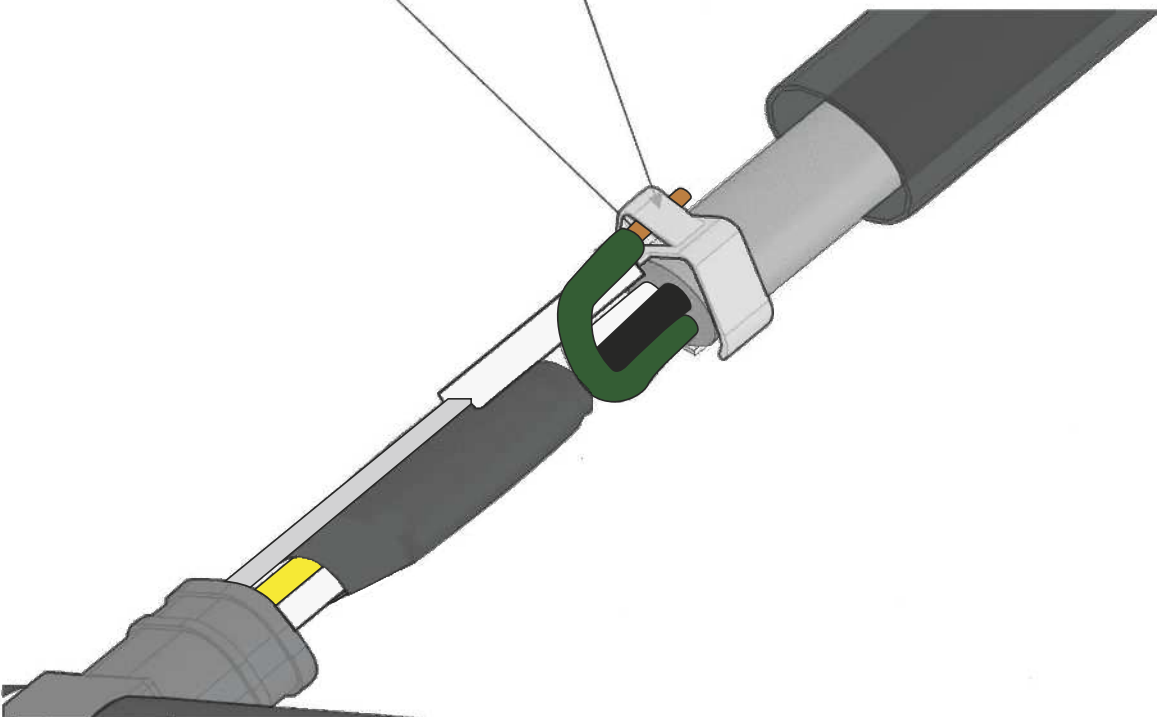
マスティックテープを圧着端子の間にいれ矢印の方向に巻き付けます。

※アース端子にはマスティックテープは巻き付けません注意してください。

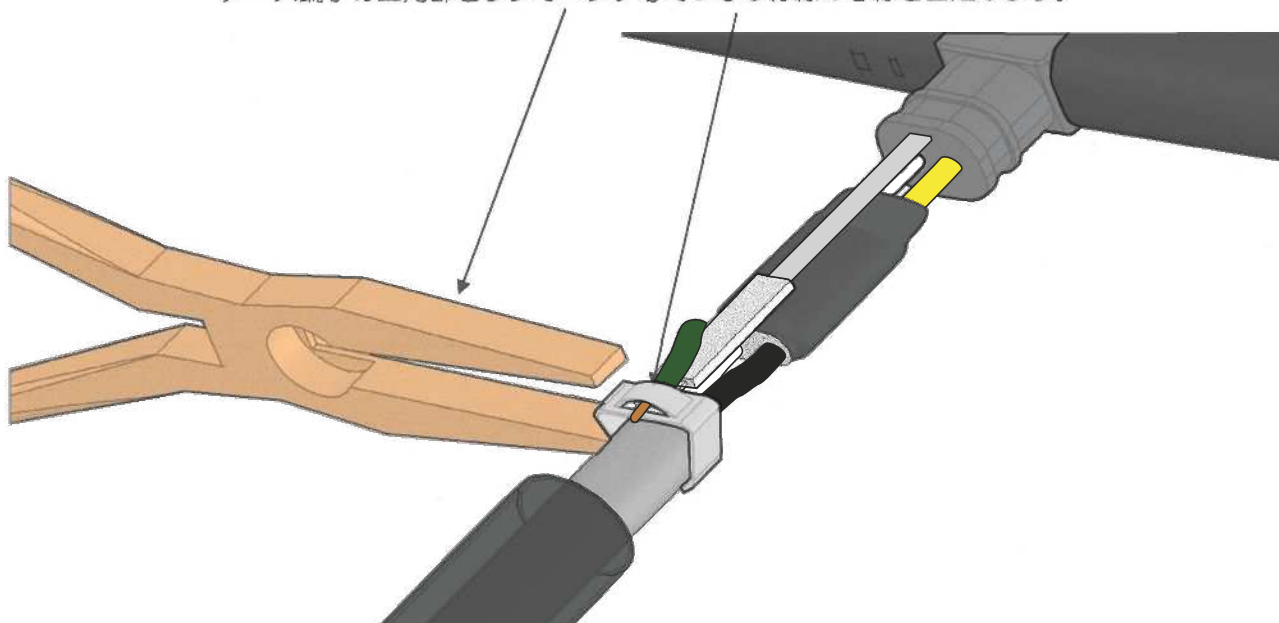


アース端子を曲げ接続ケーブルを固定します。

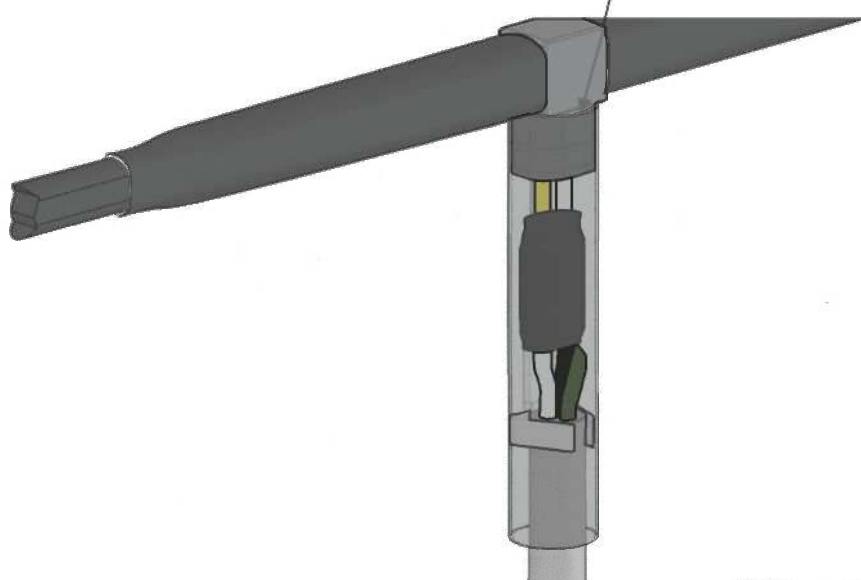
緑線の芯線をアース端子の三角部に入れます。



アース端子の三角部をラジオペンチ等でつぶし緑線の芯線を固定します。



チューブ120mmをT-15LMの根元まで移動させます。



ガストーチで熱を加え完全収縮させ完成です。



※完全収縮するとチューブ表面に光沢がでます。目安としてください。